



# 岐阜市のまちづくり



岐阜市長 細江 茂 光



## 1. はじめに

岐阜市は、木曾、長良、揖斐の三大河川の沖積土によってできた濃尾平野の北部、岐阜県の南西部に位置しています。気候は東海型で春秋は温暖で過ごしやすく、夏季には35℃以上まで気温が上昇し、高温多湿となります。冬季の降水量は少なく、「伊吹おろし」と呼ばれる北西ないし西よりの強い風が吹きます。

また、本市は中央部に標高338mの金華山、その麓を流れる清流・長良川という自然環境に恵まれ、金華山上の岐阜城、1300年の歴史を誇る鶯飼など、歴史的、文化的な資産にも恵まれています。なお、現在岐阜公園となっている金華山周辺は、戦国時代に斎藤道三、織田信長が本拠を置いた地域でもあります。

本市は、古代から人々が集まり、明治6年には岐阜県の県庁所在地となり、平成8年4月には中核市の指定を受けて、県内にとどまらず中部地方の政治、経済、学術、文化等の主要都市となりました。

平成18年1月には柳津町と合併し、面積202.89km<sup>2</sup>、人口42万人となり、平成21年には市制120周年を迎えました。



## 2. 岐阜市のまちづくり

本市は、「市民と行政の協働」「地域と未来の活力を支えるひとづくり」によって「自己決定・自己責任の市」を目指すことを基本理念とする「岐阜市総合計画2004」を、平成15年に策定しました。

基本理念では、「世界と未来に向かって持続する自律循環型社会の確立」によって市域や圏域の自立性や持続性を確立し、国内外にたいして「岐阜市ブランド」の発信をおこなうことを目標としています。

都市の将来像としては、本市がこれまでおこなってきた4つの都市宣言「平和都市宣言」「生涯学習都市宣言」「元気・健康都市宣言」「環境都市宣言」を反映させ、次の5つにまとめました。



1. 安心して暮らせる都市
2. 便利で快適な都市
3. 活力のあふれる都市
4. 人生を楽しむ都市
5. 多様な地域核のある都市

近年、全国の地方都市同様、本市でも人口の減少や高齢化が進むなか、人口集中地区(DID)の中心部から郊外部への拡大により、市街地の人口密度の低下と空家率の大幅な上昇がみられました。

将来都市像のひとつである「多様な地域核のある都市」とは、拡大を続けてきた市街地を、人口減少・超高齢社会における財政規模でも維持でき、また徒歩や自転車、公共交通を利用して日常生活を送ることができる程度の規模に再編成するよう誘導するものです。

具体的には、全市レベルの施設やその集積を都市拠点(核)とし、ある程度まとまったコミュニティのなかで日常生活を送ることができる範囲を地域生活圏と想定しています。また、都心部では商業・業務機能に加え居住機能などの多様な都市機能の集積を図り、各地域生活圏との間を公共交通ネットワークで結ぶことによって、集約型の市街地形成を目指しています。

これらの都市像の実現のため、さまざまな政策、施策を整理し、今後の課題や事業相互の関係をあきらかにするための基本的な枠組みを5つの「政策大綱」として定め、これにもとづいた詳細な政策体系を編成し、組織的な事業展開を図っています。

1. 心安らかに暮らそう計画
2. さわやか環境をつくろう計画
3. まちをにぎやかにしよう計画
4. 人生を楽しもう計画

5. 行政を効率化しよう計画

平成18年1月の柳津町との合併後、平成20年度には総合計画の基本計画部分を見直し、基本構想の将来都市像の一つである「多様な地域核のある都市」の実現をより一層推進するため、市内を5つの行政上の区画と13の地域生活圏に設定し、地域の特性や課題、まちづくりの方向性を明確にする「地域別まちづくり」を追加しました。

## 3. 岐阜公園整備

岐阜公園は、岐阜城を頂く金華山と鶯飼で知られる清流・長良川という、岐阜市を代表する観光資源に隣接する都市公園です。

金華山の一部を含む約20haの緑豊かな敷地をもつこの公園は、明治時代から整備され、歴史博物館などの文教施設や山上へのロープウェイなどの娯楽施設が置かれて市民に親しまれてきました。

もともとこの地は岐阜の中心部だったところで、戦国時代には斎藤道三や織田信長が居館を置いた場所でした。信長が永禄10(1567)年に居城を移し、「岐阜」という名称を広め定着させ、「天下布武」という印を使い始めた場所でもあります。

本市では、昭和63年に市制100周年事業としておこなわれた信長居館跡発掘調査をきっかけとして、この地と関わりの深い「信長公」をテーマにした本格的な歴史公園を目指して岐阜公園の再整備を進めています。

平成21年12月には「岐阜公園総合案内所」をはじめとする岐阜公園エントランスが完成しました。



今回完成した各施設は、発掘調査の進む「信長公居館」の復元も視野に入れ、当時の意匠や形式・様式を取り入れた設計を採用しています。

### 岐阜公園エントランス

●総合案内所（RC+S造平屋建て232.8㎡）



信長と同時代の高級武士の迎賓機能を有する建造物を模した意匠を採用

●トイレ（木造平屋建て83.7㎡）



洛中洛外図で描かれている主殿に併設している建物を模した意匠を採用

●レンタサイクルステーション（木造平屋建て108.6㎡）



信長と同時代の高級武士の屋敷内にある厩（うまや）を模した意匠を採用

●正門



馬に跨り門を通過することを想定し、同時代に建設された城郭の門を模した意匠を採用

●御庭



書院造りの建物の御庭として、築山に石組と室町・安土期に用いられた樹木と苔等で構成する枯山水庭園を採用

「信長公居館跡」は今年度内に国の史跡指定を申請する予定です。今後も本市では、まちなか歩き、周辺観光施設の中心施設としての整備だけでなく、歴史上の人物として全国的にも人気の高い信長の時代の歴史資産を保存・継承するための拠点として整備を進めていく予定です。

## 4. 岐阜市の土地区画整理事業

本市の土地区画整理事業は、昭和3年、旧加納町において市街地構成を目的に実施された加納町耕地整理、同年に設立された東栄土地区画整理組合をはじめとして、戦前だけでも35組合が設立され、31組合、約685haの事業が完成しました。

戦後、昭和21年に始まった戦災復興事業は約470haに及び、換地清算まで含めると25年以上の時間を要して完成しました。

さらに、昭和30年代からの高度成長期には、産業の発展とともに人口の都市集中化や市街地の拡大により、市街地周辺において個人施行や組合施行による事業が相次いで実施されました。

昭和47年には、市街地北西部において重要な基幹道路である岐阜環状線、岐阜北方線の整備が緊急を要し、人口の急激な都市集中による市街地のスプロール化を防ぐため、約320haという全国的にもまれな規模の公共団体（市）施行による島土地区画整理事業が施行されました。同事業は、平成9年12月に登記が完了し、島地区は目覚ましい発展を遂げています。

また、本市の表玄関であるJR岐阜駅周辺の整備を促進するため、貨物駅跡地の香蘭地区においても市施行による土地区画整理事業を進め、平成13年5月に登記を完了しました。

現在は、鷺山・下土居地区のほか、正木西部、則武新田、鷺山第二、宇佐一丁目東の5地区を組合施行、岐阜駅北口地区を市施行での土地区画整理事業が実施されています（約98ha）。

これまでの施行済地区と施行中の地区を合計した面積は約2,440haに及び、市街化区域面積の30.3%に当たっています。

## 5. 岐阜駅北口土地区画整理事業

JR岐阜駅は一日平均5万5千人以上、年間2千万人以上（平成18年度）が利用する、県都岐阜市の玄関口です。

本市は、平成14年度から岐阜駅北口に隣接する約6.2haの範囲で、北口駅前広場をはじめとする周辺の整備を進めています。

本地区は、平成10年にJRの高架事業が完成し、市街地の南北分断が解消されたあとも、老朽化した店舗等が立地し、駅前という立地条件にもかかわらず、高度な土地利用がなされていない状況でした。

そこで本市は、本事業と都市再生総合整備事業（平成15年度から道路交通環境改善促進事業）を用いて、交通結節点機能の強化とともに、街区形状の変更と宅地の再配置による地区内宅地の高度利用及び有効利用を図ることによって、県都の玄関口にふさわしい都市拠点の整備を進めています。

- ・事業名：岐阜駅北口土地区画整理事業
- ・施行者：岐阜市
- ・施行面積：6.2ha
- ・都市計画決定：平成14年11月12日
- ・事業認可公告日：平成15年1月27日
- ・仮換地指定：平成18年6月20日
- ・平成18年10月10日
- ・事業施行年度：平成14年度～平成24年度（事業進捗率：約65% 平成19年度末）
- ・総事業費：約94億円

平成21年9月には7年の期間をかけて整備された岐阜駅北口駅前広場が完成しました。

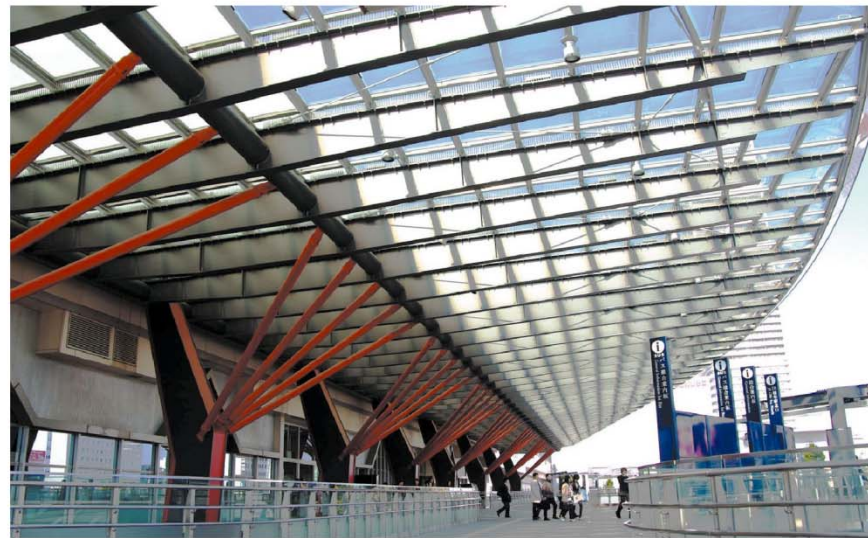
同広場は、多様なコンセプトで人の流れをつくりだす「にぎわい」の発信地になると同時に、「岐阜らしさ」を表現したデザインによって本市の「新たな顔」と呼ぶのにふさわしい都市景



観を形成するため、以下の方針で整備されています。

●「岐阜らしさを表現したデザイン」

岐阜の和傘をモチーフとした「大屋根」など、各施設のデザインには岐阜の自然、歴史、伝統文化を取り入れています。



●「杜の駅」

「やすらぎの里」に植えられた岐阜を代表する桜をはじめ、市内、県内の樹種を市民と協働で育てています。



●「『にぎわい空間』の創出」

「スクエア43」と市民から寄附された織田信長公像の置かれた「信長ゆめ広場」で、様々なイベントが開かれます。

●「交通結節機能の強化」

全国一の規模を誇る広場にバスやタクシー乗降場を機能的に配置し、駅と街は歩行者用デッキ「杜の架け橋」で結ばれています。



●「安心・安全の駅前広場」

ユニバーサルデザインに配慮し、情報案内板などを設置して、誰もが安心・安全に利用できるようにしています。

●「環境機能の強化」

照明の一部にLEDを使用し、噴水などには井戸水を循環させるシステムを採用しています。



岐阜駅北口駅前広場

・面積：約26,500㎡

・主要施設：

歩行者用デッキ (L=612m, A=6,926㎡)

エレベータ (9基)

エスカレータ (3基) 階段 (11基)

バス乗降場 団体バス乗降場

一般車・タクシー乗降場

自動車整理場 自転車整理場

やすらぎの里 (2,240㎡)

芝生広場 (1,000㎡)

信長ゆめ広場 (1,800㎡)

スクエア43 (420㎡)

高木 (193本) 低木 (6,923本)

生垣 (313m)

・総事業費：約103億円